

奄美群島自然公園予定地利用計画施設概要

昭和 44 年 3 月

財団法人 海中公園センター

No1 奄美群島自然公園予定地利用計画施設概要

海中公園センター調査報告

奄美群島自然公園予定地利用計画施設概要

昭和44年3月

財団法人 海中公園センター

奄美群島自然公園予定地利用計画施設概要

一級建築士 小田部 温

(たくみ一級建築士事務所長)

(1) 建築計画書旨

各施設地に於ける建築物の意匠計画は、各島々に残された伝統的な特徴のある民家等の秀れた良さを主体的に取入れたデザインを以つて、各施設地共統一的に之を採用し、奄美を訪れる観光客の抱く亜熱帯的なエキゾチックなイメージを壊さない様に心掛ける。いたづらに異質な新しいスタイルを取入れて既存観光地の徹を踏むことは奄美の将来のために得策でない。これは重要な考慮すべき問題である。

従つて用いられる資材も可能な限り現地産出の素材を開発し、之を生かしたデザインが追求されなければならない。その意味で現存する遺産的な建造物(民家、農小舎等)も、又史跡、天然記念物、民族資料専も保護保存され計画された施設と共存することが肝要である。

又与論島托あつては特に海岸線よ少 2 0 0 米以内は自然景観保存地帯として現況を保護したい。又施設としては海中公園本来のもの並に海水浴場施設及フリーキャンプ場施設等止むを得ない施設以外は原則として建設を認めないことが大事である。

構造は特に耐風構造を考慮し、R.C を主体とした、外部に露われる木材はデザインの上からも大材を使用する様に心掛けられた設計が望ましい。

(2) 施設計画の放電

A. 笠利(奄美大島)

1. 須野地域

アヤマル崎に隣接して宿泊専用地域としてロッジ、モーター、キャンプ場を設け、地域内忙ドライブインを併設する。

ロッジ

稍高級な宿泊施設とし、尚幾室かの特別室を設ける。附属施設として真水プール、テニスコート等を設け滞在客の利用に供する。

モーター

敷地勾配を利用して、1階2階共各戸に直接駐車が可能な平面計画とし、ベッドルーリビングにシャワーバス、W.C 並簡単な炊事場を各戸に設ける。

キャンプセンター

キャンプ場の中心となる施設で軽食堂、管理事務所、売店、シャワーバス、テント倉庫、W.C 等を設け又階上は2段ベッド室としキャンププロッチとして利用する。

ドライブイン

敷地は成る可く、県道に近接した景観の地を撰び休憩食堂(120人収容)、売店、W.C、駐車場が主たるものとする。

乗船場

用並にその周辺地区の海中公園観光の利用に供する施設である。乗船券売場(管理事務所)、船頭休憩室、待合室、休憩食堂(収容人員50名)、W.C を設け、又グラスボート乗降船棧橋、船引揚場を設備する。

2. 用地域

奄美大島の集団施設地域として、海中公園、磯遊び、児童公園、自由広場、を設け又宿泊施設とてロッヂ、旅銘、キャンプ場、民宿を計画開発する。

ビジターセンター

稍規模の大きいビジターセンターとし、水族館、展示場、レクチャホールを設け観光客をして海中公園並奄美大島に関する予備知識を満足せしめる場とする。専門の駐在員を置き解説の補とする。其他に案内所、管理事務所、倉庫、W.C 等を設ける。之に併設して海中観察のためのグラスボートの発着船設備を設け、待合室、売店、乗船券売場、埠頭休憩室、棧橋、船引揚場並一般観光のインフォメーションを設ける。

階上に休憩食堂(収容人員150名)を設置し、レストハウス又は

ドライブインとして利用せしめる。

ロッヂ

須野地域同様に稍高級の宿泊施設とする。

旅 館

中級の宿泊施設とし一棟の収容人員は 50 名とし、二棟計画とする。

キャンプ場施設

共同炊事場、W.C、ファイアサークルを設け、植栽により極力緑陰を創る。又ハブ対策は充分に考慮する。

民 宿

用部落で此の地域周辺の可能な民家は民宿として利用することが望ましい。

休憩舎

海岸に面して休憩舎を設け、休息所、簡易な更衣室、シャワー、及 W.C を設備して磯遊び客の利用に供する。

自由広場

ピクニック並其他屋外の広範な利用に使用する。

児童公園

名瀬からも比較的容易に来ることが出来る地区であり磯遊びとも関連して、余少喧騒にならない程度の遊戯施設を整備し、児童公園として子供の海中公園への結び付きの足掛りの一つとする。

B 瀬戸内(奄美大島)

1 . 実久地竣

瀬戸内に於ける海中公園の中心基地とし、海中展望塔並グラスボートに依る海中観光並海水浴、ビジターセンター及宿泊施設、キャンプ場等、集団施設地域として開発することが望ましい。又実久はミナク離並周辺の島嶼へ渡る中間基地ともなる。

実久部落の現況は奄美の村落として外部から未だにおかされていない 30 戸たらずの小部落で纏つた美しい佇いを見せている、現在では離村者が多く空家が処々に散見し謂ゆる過疎部落で有るのでむしろ之れを生

かした村落ごと(協同経営)の集団施設地域とすれば適策かと考えられる。又此地はハブ対策は十分に考慮されねばならない。

海中展望台

建設に当つては水深 6 米前後の海中景観並地質の上からも適当な場所を選択する。場合に依つてはフローティング型も考られる。栈橋の中間にボートから上陸出来る繫船栈橋を造ると良い。

栈 橋

上陸用栈橋は現存のものを増設延長する。其周辺に悪天候時の避難繫船場を設ける。

リゾートセンター

ビジターセンター

観光客に海中公園の予備知識を与えるための小水族館、展示場、案内所を有つた施設を造る。階上は休憩食堂としレストハウスとして地域全体で利用させる。

又既存の公民館も本施設の一つとして併用すると良い。

グラスボート基地

海中公園観察のためのグラスボートを 15 隻程度備え、乗降船栈橋、船引揚場管理棟、待合所等を設ける。

宿舎地区

国民宿舎

比較的大きい住宅(閑家)を主体にして隣接民家を集合連繫して国民宿舎風に改造補修し、民営国民宿舎とする。定員 50 名位が良い。施設の補修改造及計画にあつては現存の実久部落の雰囲気を生かした設計とする。

民 宿

離村家屋を始め可能な民家を之れに当てる。

ショッピングセンター

部落の中央部の数軒を成るべく現況の姿を壊さないで食品、雑貨、みやげ物、郵便事務等の売店区域とする。

キャンプ場

現存する旧軍施設の建物を改造して、ロッチとする。共同炊事場及 W.C、ファイアサークル等を設け地区周辺並要所を緑化し苑地とする。

民族資料

現存する源三次郎神社及ノ口祈禱所跡(復原すると良い)を緑化し苑地とする。又ビジターセンターの一環として、旧公民館を民芸館として奄美地方の民芸品の蒐集展示をすると良い。

2. ホノボトシ地域

古仁屋地区に於けるレジャー地域として開発する。各施設は底浦を中心として国民宿舎、レストハウス、ポートハウス、フィッシングセンター、キャンプ場、自由広場を周辺に配り、対岸アプローチに苑地広場を設けて駐車場、ビジターセンター等を計画設置する。尚現存堤防の水路は底浦の水深調整用の水門を設ける必要がある。又堤防上の道より当地区へ這入る道は地形上、栈橋型式の人工路盤(R.C)の造成が必要である。

国民宿舎

古仁屋地区の国民宿舎建設の敷地としては最適の一つである。収容人員は 100 名とし底浦に接し別棟を計画しベランダより栈橋を設けて各客室より直接舟遊びが集しめる施設とする。

レストハウス

勾配地を利用した階上は休憩食堂(収容人員 100 名)とし、階下にはキャンプロッチを兼用する大広間(30 帖)売店、シャワーバス、管理事務室専を設ける。

ポートハウス

休憩所、管理人室、W.C を設け底浦に張出してバルコニーとし之れに続いて栈橋を設備する。ポートは一般のものより土地の特徴のあるカヌー(約 50 隻)が良い。

フィッシングセンター

休憩所、管理事務所、釣具等を扱う売店、W.C 等を設ける。
釣池は底浦の一隅を魚柵で区画し放魚育生をなし、釣場は地中並岸

辺の適所に数ヶ所設ける。

キャンプ場施設

ホノボトシ海岸は現在既にキャンプ場として利用されているが、共同炊事場、W.C を設けてキャンプ場として整備する。

ビジターセンター

当地利用客のために、小規模のビジターセンターを設け、インフォメーション並管理事務所、博物及永生物の展示場を設備する。専門の駐在員を置く

C. 与論島

1. 茶花地域

茶花港は与論島観光のアプローチであると同時に海上、陸上交通の起点であり、又海中公園観光の基地である。之等各施設は此地特有の数多いドリーネを避けて適地を選定する。

ビジターセンター

与論等のあらゆる予備知識を事前に観光客に得せしめるために必要な施設であつて、小水族館、博物展示場、映写用スクリーン等を設備し、説明員を常駐せしめる。

建物のデザイン性雰囲気を中心に揃ったものであることが必要である。

レストハウス

与論島観光の手引をする総合案内所及待合休憩所を兼ねた食堂を設ける。案内所の壁面にはルートを色分けした見易い大観光地図を設備ける。

バスターミナル及タクシー、レンタカーの営業所を併設する。又売店は無くってはならない施設である。デザインは前項同様大事である。

ロッヂ

中級の宿泊施設で定員 85 名以内で余り大きな必要はない。港に近いため一般の宿泊以外に船待等に利用され、一般旅館とは異なつた特色を持つことが出来る。室内の娯楽設備の他に真水の屋外プール等を設け

る。

乗船場

海中公園観光のための大型グラスボート発着船の基地として待合休憩所、乗船券発売所、棧橋並避難繋船設備を必要とする。他の施設と有機的に連繋して管理運営が出来る様にするが良い。

管理休憩所

悪天候又は時間不足等の理由で海中公園の観光が満足出来なかつた観光客のために Sub 施設的に海上(海中)公園を設け、熱帯魚並各種珊瑚類を育成し、小型グラスボート又はカヌー等を使つて手軽に海中間観察をせしめるための小公園の運営管理と待合休憩をするための施設である。

観察塔

前記小公園の海中観察の便を計つて棧橋の中間に設置する。

休憩所

茶花灯台(既存)を経て隣接の自然植物園地域へつながるネイチュアトレールの要所に、その場所に適した規模と内容をもつた休憩舎を設ける。フンチュ崎地区には稍規模の大きい施設があつても良い。

2. 宇勝地域

海中公園観光の第二基地としてグラスボートの乗船場並に宿泊の基地(旅館、貸別荘、キャンプ場)を設ける。

乗船場

グラスボートの発着船用棧橋、避難船庫、売券所、待合室、休憩食堂等を設ける。

旅館

中級程度の旅館とし定員は100名とする。

管理棟

貸別荘(7棟)並にキャンプ場の管理を兼ねたロッヂ(集会、小食堂、薪食品雑貨を扱う売店、シャワーバス)としての機能をもたせた設計とする。

貸別荘

独立平家建(2DK、浴室、W.C)とし、此の地域は計画環状観光道路とは農地帯をもつて隔絶する。将来増設の必要があるときは計画道路を挟んだ南側に予定地が考えられる。

3. 百合ノ浜地域

木麻黄の立派な防風林をもつ海浜を中心とした海水浴、磯遊び、キャンプ場、宿泊施設(国民宿舎、ロッジ、民宿)屋外遊技施設(真水プール、テニスコート、自由広場)を設ける等、集団施設地域とし広範な屋外リクリエーションの場を提供する。

ロッジ

やや高級な宿泊施設とする。定員は約 36 名とし小ぢんまりとした南国ムードのしょう洒なデザインとする。

国民宿舎

収容人員は 150 名とする。パブリックスペース(食堂、ロビー、浴室等)は一般屋外施設の利用者にも開放する。

海水浴場

クローク、脱衣所、休憩所、喫茶食堂、シャワー、洗足池等を設ける。

外観は主棟を五棟分に分け之れを下屋にて接続し一棟とし、長屋の味気なさを避け環境にマッチさせたデザインとする。

休憩食堂管理事務所

屋外施設として真水プール及テニスコートを設ける。管理棟の階上は休憩食堂とし階下に管理事務所、W.C、更衣室、シャワールーム、を設ける。

以上の他に中金久部落を民宿(地区)とし宿泊利用を考慮することが望ましい。

4. ハケビナ地域

専ら宿泊専用基地として開発する。

旅 館

中級の宿泊施設とする。定員数は約 45 名のものを二棟計画する。場所は台地上とし客室よりハケビナ浜方向の景観を満喫出来る位置を撰ぶ。

別 荘

比較的長期の滞在客を対象にした施設とする。独立平家建とし D.K、和室、W.C、浴室等を計画する。

ケビン

簡易な宿泊に供する施設で、D.K、ベッド、W.C、シャワーバスを計画する。

この CD-ROM の著作権は財団法人海中公園センターが所持しています。
本 CD-ROM の無断コピー、転載および販売を禁じます。

財団法人 海中公園センター

住所：〒105-0002 東京都港区愛宕 1 丁目 3 番 1 号 三興森ビル 7 階

電話：03-3459-4605

FAX：03-3459-4635

e-mail：marpark@blue.ocn.ne.jp